

1 網作り



大綱のもととなる最小
単位の綱作り「グミ編み」

大綱は毎年、新しいものが作られる。約6千〜7千の新藁から、直径最大80cm、周囲2.2m、長さ約64m(42尋)の雄綱と約50m(33尋)の雌綱が作られます。

2 網飾り



雄綱と雌綱、それぞれの重さは約10トン。二日町(上町)、五日町(下町)の境の中心である「 Dopp 」付近に飾られる。

3 神事



市神様を大綱の飾ってある Dopp へ、42歳厄年の男性が背負って運び、安置し、神官がご祈祷、お祓いをし、餅まきを行う。

4 綱のばし・小綱付け



雄綱は二日町(上町)へ、雌綱は五日町(下町)へのばし、それぞれの大綱に小綱や尻綱が結び付けられる。

5 押し合い



大綱を結び合わせるために、どちらが先に綱を出すか、どれだけ綱を出すかの交渉が押し合いとなる。

国指定
重要無形民俗
文化財

刈和野の大綱引き

毎年2月10日開催

今から500余年前、室町時代から続いている伝統行事。由来については諸説あり、平将門の一族である長山氏が落ち延びて刈和野に定住し、その奉ずる氏神が「市神」であり、その祭事として始まったと伝えられています。

二日町(ふつかまち・上町)の雄綱(おづな)、五日町(いつかまち・下町)の雌綱(めづな)に分かれ、この2本の綱を結び合わせて引き合いが始まります。「ジョーヤサノー、ジョーヤサノー」の掛け声にあわせて、渾身の力で綱を引きます。冬の寒さを吹き飛ばすほどの熱気と歓声が響き合う、日本最大級の綱引きです。

二日町(上町)が勝てば米の値段が上がり、五日町(下町)が勝てば豊作になると言い伝えられています。

9 綱の奉納



引き合い後で固く締まった結び目をほどこし、すべての綱は浮嶋神社に奉納される。

8 引き合い



両町の建元が綱の結び目に集まり、結びが安全であることを確認する。ひとりの建元が「ソラー!」と叫びながら、綱を飛び降りることが引き合い開始の合図であり、勝負開始の瞬間である。

7 綱合わせ



「蛇口結び」という特殊な結び方で雄綱を雌綱に結ぶ。

6 綱の出し合い



建元の指示のもと提灯の振りに合わせて、「ジョーヤサノー」の掛け声をかけながら雄綱と雌綱を結び合わせるために、両町で綱を出し合う。